

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：34310
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：20K01515
研究課題名（和文）ダニエル・イノウエと日米関係 1970～80年代を中心に

研究課題名（英文）Daniel Inouye and Japan-U.S. Relations

研究代表者

村田 晃嗣（Murata, Koji）

同志社大学・法学部・教授

研究者番号：10284126

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：1970-80年代を中心に、ダニエル・イノウエの政治活動を通じて、日米関係の新たな課題と連邦議会の関与、日系アメリカ人をはじめとするマイノリティの政治的、社会的影響を検討した。こうした作業を通じて、民主党政治の特徴とその変容についても分析した。また、イノウエについての伝記研究が存在しない現状で、彼の政治的信条や手法を多角的に検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間の大半がコロナ禍に重なり、行動が制約されたが、基本的な文献を収集・分析し、ハワイ大学図書館でイノウエ関連文書を収集することができた。とりわけ、日米経済摩擦が激化する中で、日本側が国際交流基金を設置したように、アメリカ議会は日米友好基金を設置し、文化交流を通じて、これに対処しようとした。イノウエはこのプロセスの中心にあり、日米摩擦の緩和、日系アメリカ人のプレゼンスの向上に議会を通じて貢献した。その際、イノウエが日本政府と緊密な関係を維持しながら、議会内で利益分配の政治に巧みな采配を振るった様子が確認できる。

研究成果の概要（英文）：Through the political activities of Daniel Inouye, mainly in the 1970s and 1980s, this study examined new issues in US-Japan relations, Congressional involvement, and the political and social impacts of Japanese Americans and other minorities. This research also analyzed the characteristics of politics within the Democratic Party and its transformation. In addition, in the current absence of biographical research on Inouye, the study examined his political beliefs and methods from various perspectives.

研究分野：国際関係論

キーワード：ダニエル・イノウエ 日米関係

1. 研究開始当初の背景

この研究は、アメリカ合衆国(以下、アメリカ)の連邦下院議員、同上院議員(民主党、ハワイ州選出)を歴任したダニエル・ケン・イノウエ(Daniel Ken Inouye)が日米関係でいかなる役割を果たしたのかを、1970~80年代を中心に分析する。イノウエは日系人として最も著名なアメリカの政治家であり、2010年6月から12年12月に死去するまでの間は、上院議員の最高位たる上院仮議長も務めた人物である。

1970~80年代に、アメリカ政治は民主党主導の「大きな政府」から「小さな政府」志向の保守優位に転じ、日米関係は一方で貿易摩擦に揺れながら、他方で安全保障関係が深化するなど、日米が内政・外交の両面で変化を経験した。このダイナミズムに関する学術研究が近年多く発表されているが、イノウエの役割に着目した研究はこれまでにない。本研究はイノウエの人物研究を通じて、日米関係の変容を捉え直す新たな視点を提示する。

2. 研究の目的

この研究の目的は、日系アメリカ人政治家の日米関係への関与を重層的に分析し、日米関係、アメリカ外交における連邦議会の役割を解明した上で、上述のような日米関係の変容をアメリカの内政との関係で検討しアメリカ政治の文脈に位置づけることである。

イノウエに関する研究には一定の蓄積があるが、人々の語りを重視する人文学的アプローチが中心であった。対して本研究は、イノウエが各アクターに対してどのような政治的影響力を及ぼしたのかを、政府内外の政治過程の分析を通じて考察する社会科学的アプローチも取り入れ、双方の議論の架橋を目指すところに、オリジナリティがある。

さらに、本研究は、イノウエ個人の政治・外交的な役割にとどまらず、アメリカ政治における日系人やマイノリティの役割を明らかにする波及効果もある。例えば、同じく民主党で日系の政治家でも、マイク・ホンダ(Michael Makoto Honda)元下院議員は、いわゆる従軍慰安婦問題で日本に厳しい姿勢をとった。このように、人種などに基づく集団利益を軸とするアイデンティティ・ポリティクスが外交で果たす役割は、世代や選挙区事情などにより多様で複雑である。今日、アイデンティティ・ポリティクスが一層顕著になり、アメリカ政治上の変化が日米関係などの外交にも波及している。イノウエという長期間活躍した日系アメリカ人政治家の言動を検討することで、日系人コミュニティの力学に迫るのみならず、今日のアメリカ政治におけるマイノリティの役割にも比較軸を提供する。

好都合なことに、本研究が対象とする時期から30年以上が経過したため、近年、当該期におけるイノウエに関連した公文書の機密が解除され、公開が相次いでいる。例えば、FBIが公開した資料には、イノウエの警護を目的とした捜査資料のみならず、イノウエ自身の言動に関する記録も含まれている。これらの新資料は、従来検証できなかったイノウエの行動や認識を端的に表している。しかも、こうした最新の資料公開状況を踏まえて、イノウエの軌跡を実証的に研究したものは、管見の限り存在しない。よって本研究は、最新の資料からイノウエを再解釈することで、アメリカ政治・日米関係にも新解釈を示す先駆的な研究になる。

3. 研究の方法

中心的な手法として、資料および文献調査による政治過程分析と、イノウエの個人的な役割を把握するためのインタビュー調査を用いる。具体的には、以下の通りである。

日系アメリカ人の歴史、行政府=立法府関係の理論と実証研究、日米関係史などの文献を本研究の分析軸から再検証すると同時に、一次資料を精査し、連邦議会図書館で立法関係の資料を調査する。

イノウエに関しては存命の関係者が多いため、インタビューを重ねることで収集した資料を補強・修正しつつ、新たなイノウエ像を提示する。

4. 研究成果

1970-80年代を中心に、ダニエル・イノウエの政治活動を通じて、日米関係の新たな課題と連邦議会の関与、日系アメリカ人をはじめとするマイノリティの政治的、社会的影響を検討した。こうした作業を通じて、民主党政治の特徴とその変容についても分析した。また、イノウエについての伝記研究が存在しない現状で、彼の政治的信条や手法を多角的に検討した。

研究期間の大半がコロナ禍に重なり、行動が制約されたが、基本的な文献を収集・分析し、ハ

ワイ大学図書館でイノウエ関連文書を収集することができた。とりわけ、日米経済摩擦が激化する中で、日本側が国際交流基金を設置したように、アメリカ議会は日米友好基金を設置し、文化交流を通じて、これに対処しようとした。イノウエはこのプロセスの中心にあり、日米摩擦の緩和、日系アメリカ人のプレゼンスの向上に議会を通じて貢献した。その際、イノウエが日本政府と緊密な関係を維持しながら、議会内で利益分配の政治に巧みな采配を振るった様子が確認できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村田晃嗣	4. 巻 5巻1号
2. 論文標題 「アメリカはどこに向かうのかー同盟諸国への示唆と課題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『安全保障研究』	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田晃嗣	4. 巻 48(4)
2. 論文標題 トランプからバイデンへ：アメリカ政治外交の変化と継続	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田晃嗣	4. 巻 2(3)
2. 論文標題 米国の感染症対策と国際関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 細谷 雄一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 PHP研究所	5. 総ページ数 224
3. 書名 世界史としての「大東亜戦争」	

1. 著者名 村田 晃嗣	4. 発行年 2021年
2. 出版社 P H P 研究所	5. 総ページ数 232
3. 書名 トランプVSバイデン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------